

大阪大学 環境サークル

GECS

大阪大学環境サークルGECS(以下GECS)は、大阪大学の公認サークルです。大阪外国語大学が大阪大学と合併する前の2003年に、「外大の環境を良くしよう!」という想いのもと集まったメンバーで、GECS (Gaidai Eco ChallengerS)を設立しました。2007年に大阪外国語大学が大阪大学と合併した後、2008年に大阪大学の公認サークルとなり、現在は78名のメンバーで豊中キャンパス、吹田キャンパス、箕面キャンパスを中心に活動を行っています。



大阪大学環境サークル GECS 集合写真

「学生」という立場から環境問題の改善に貢献する

活動内容



GECSのメンバーは現在7つの班に分かれ、活動を実施しています。学内に身近なりサイクルシステムを構築し、大学内の古紙集めプロジェクトを行っている「R班」、学内や地域における壁面緑化の推進を行っている「壁面緑化班」、多くの人に環境に関心を持ってもらえるような環境教育に取り組んでいる「環境教育班」、まちをきれいにすることを目的に、地域のごみ拾い活動を実施している「McK班」、日常的に使うものの共有と再利用を軸に、多くの人を環境活動に巻き込む活動を行っている「SHERRY班」、学内の環境活動の推進を学校に提言を行っている「CCC班」、学内に花卉を植えるなどの緑化活動を推進する「花咲かにいさん班」に分かれています。設立時からこの班編成であったわけではなく、新たな環境課題や環境に対する意識に応じて班を増やしたり、活動の枠組みを広げたりするなど、班にとらわれない柔軟な活動を実施しています。

活動紹介
(McK班)

GECSでは、自治体や地元の環境団体など、外部の組織と連携した活動を数多く行っています。例えばMcK班では週に一度「Weeklyごみ拾い」活動を大学周辺で実施しており、これまでで計124.4kgのごみを拾いました。拾ったタバコやペットボトルの本数、ごみの重量など様々なデータを測定し、得られたデータをもとにごみの多いポイントの分析を行っています。活動の周知や啓発のため、収集・分析したごみデータはweb上で公開をしています。また、記録したデータを基に「まちをきれいに」するための対策として、池田市や阪急電鉄と連携を行い、側溝や高架下などのごみの捨てられやすい場所において、蓋をする、隙間をうめるなど、ポイ捨てを未然に防ぐための対策を実施しています。これらの防止策の効果測定についても、「Weeklyごみ拾い」活動で実施し、池田市に報告を行っています。



清掃の活動の様子

活動を通して
見つけた課題と、
活動の発展

McK班では継続的にごみ拾い活動を実施していましたが、「Weeklyごみ拾い」活動においてその場のごみを拾うことはできても、ごみのポイ捨てそのものをなかなか減らすことができないという課題がありました。その課題を解決すべく、ごみ問題について地元の住民を中心に啓発を行う目的で「スポーツGOMI拾い」イベントを開始しました。大学付近で開催する際は、地元の住民や自治体、商店会からの協力も得ながら実施し、このことがきっかけで商店会の人たちや地元住民の方々とも仲良くなり、ごみ拾い以外のGECSの活動への協力も得られるようになっていきます。

今年の7月末の実施した「スポーツGOMI拾い」では地元住民の29名の方が参加し、計43.9kgのごみを拾うことができました。このイベントは、実際に身近なごみ問題に触れ、まちの美化への意識を高めてもらうことで、ポイ捨ての削減に繋がりたいというねらいで開催しており、このような活動を通してこれまで環境に関心がなかった参加者が「環境は面白い!楽しい!」と考えてくれるようになったことがなにより大きな成果の一つであり、それこそがGECSの活動目的の一つの柱です。